

はっとりただし 服部 匡志

Tadashi Hattori

さんって、
どんな人？



一人でも多くの人に光を！ 貧困に苦しむ人々を救う「赤ひげ先生」

病院に席を置く勤務医でもなく開業医でもない。フリーランスの眼科医として日本全国に足を運び、最先端の内視鏡を駆使して糖尿病網膜症や網膜はく離の手術をする服部医師、その理由は貧しい人々を一人でも多く失明から救うため。ベトナムで無償の医療活動続ける現代の「赤ひげ先生」です。

経済的に厳しい地域が多く医師も少ないベトナムでは、病院で治療を受けられずに失明する人々が後を絶ちません。たとえば病院に行っただとしても手術費を払うことができず諦めてしまうケースが多く、服部医師はそんな患者たちから治療費をもらわず、日本で稼いだお金を使って今も治療をつづけています。

私財を投じてベトナムへ。救った患者は2万人超

京都府立医科大学医学部を卒業した服部医師は全国の病院で研鑽を積み、硬膜硝子体手術の分野で「神の手」と称えられるほど世界トップレベルの技術を持つようになります。

2001年、貧困が原因で多くの患者が失明を余儀なくされているベトナムの状況を目の当たりにし、約500万円の私財を投じて最新の医療機器を現地に導入。本格的な眼科治療と医師育成のための指導を開始します。誰もが認める凄腕、それでも報酬をいっさい受け取らず、日本で稼いだアルバイト代で旅費、滞在費、治療費などをまかない、手術代を肩代わりすることもしばしば。こうした活動を14年続け、治療した患者は2万人を数えるようになりました。

立ち足る社会主義国の壁を乗り越えて

日本なら助かるものも医療環境や技術がともなわなかったため多くの人が失明していたベトナムの状況は、服部医師によって大きく改善されました。しかし当初は技術や器材の問題だけでなく、社会主義国ゆえの厚い壁がありました。

病院で働く医師や看護師はすべて公務員。仕事の内容に関わ

らず給与は支払われ、どんなに切迫した患者が居ようが手術が残っていようと16時になると一斉に全員が帰ってしまう有様。服部医師は「患者を自分の家族と思え」という理念を粘り強く説きつづけ、自らの行動をもって現場スタッフの意識を変えていきました。また、メスを握るだけでなくその技術を現地の医師に伝えることで都市部の医療環境は大きく向上しました。今後は地方へ、そして世界へ目を向けた医療展開を目指しています。

- 2006年 「第16回宮沢賢治イーハトーブ賞」受賞
- 2007年 ベトナム政府より「人民保健記念章」叙勲
- 2008年 全国学士会より「アカデミア賞」受賞
平和研究所より「中曽根康弘賞」受賞
- 2012年 内閣官房国家戦略室より「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」として古川大臣より感謝状授与
- 2013年 日本国外務大臣表彰、「読売国際協力賞」受賞
- 2014年 ベトナム政府より最高位「友好勲章」叙勲
- 2015年 「ヘルシー・ソサイエティー賞」受賞

その活動は各メディアでも話題に

情熱的で真摯な眼科医に国内外のメディアが注目、日本でもテレビなどを通して服部氏の活動が広く知られるようになりました。以下はその一例。◎情熱大陸(毎日放送) ◎奇跡体験!アンビリバボー(フジテレビ) ◎地球アゴラ(NHK) ◎日経スペシャル 未来世紀ジパング~世界を救う日本の赤ひげ(テレビ東京) ◎カンブリア宮殿「一人でも多くの人に光を!日本とベトナムを救うさすらいの眼科医」(テレビ東京)

会場では
サイン入り著書の
限定販売も



収益の一部は
失明予防活動に
役立てられます。数量限定、
ご予約を承ります。

「人間は、人を助けるようにできている」

「老ける老けないは目で決まる!」
各2,000円

寄付金ご協力をお願い
NPOアジア失明予防の会

〒602-0855

京都市上京区西三本木通荒神口下ル
上生洲町197-1 青蓮会館内
tel: 075-257-3585 fax: 075-256-0571
mail: apbainfo@asia-assist.or.jp

貧しい国の
人々がこれ以上
光を失わない、
そんな
未来のために

サイン入り著書とアフターパーティのご予約、その他のお問い合わせはFAXまたはメールにて承ります。折り返し事務局よりご連絡いたしますので、必ずお名前と連絡先電話番号、メールアドレス等をご明記ください。
苦楽園ストアーズミーティング事務局 FAX: 0798-5268-6676 メール: ksm@kurakuen.info